



生えちゃった……

いんちん²

RURU
TIM²



SAMURAI SPIRITS ONLY BOOK
威風堂 2023

みなさんこんにちは「威風堂」です
年末の忙しい時期に体調を崩し
てしまい
かなりのへろへろ進行となりました。
まあこういう時もあるよね。

とにかく根性を出しての発行
となりました。
今回は『サムライスピリッツ』
が30周年という事で
10年前に発行した『ナコちん』
という本を
リメイクしようと動きましたが
結局全部新規になりました。
ゆっくりとお楽しみください。

ちなみに今回、本文テキストは一度書いたのですが
気に入らなかったので全削除しました。
そういう時もあるよね! 威風堂(中野ら〜めん)

ナ
コ
リ
ム
と



南蛮渡来の 不思議な薬

文：中野ら～めん
画：たまつやだ

「姉さま……身体が……熱い……」
夜中に艶めいた囁きを受け、ナコルルは布団から起き上がる。「どうしたの……？ リムルル？」
桑名藩、今の三重県から熊野本宮、そして高野山へと続く熊野古道、ナコルルとリムルルの姉妹は江戸城下で起こる災厄を予期し、その災いの禍を探すべく旅をしていた。
旅の山中では多くの障害が起こる。山賊、刺客、災害など、それらは少女の細腕では手に余る柵でもあり、身支度を整えるべく山中の旅籠に逗留をした二人、質素ながら真心のある接待を受け、床に就いたまでは良かったのだが……
「これは……一服盛られた？」
慌てて妹を抱きかかえると、その肌は熱を帯び、血色も強く高揚している。
吐息は荒く、その股間には——イチモツがそり上げていた。「なっつっ——リムルル貴方、その身体……」
「うふふふ……姉さまだって♡」
抱きかかえた妹の火照りとは別に、ナコルルは自分自身にも変化した事に気づいた。
「ああ……ああ、これは……」
ナコルル自身の股間にも怒張したイチモツがその意に反して脈を打っていた。



「こ……これは？」

自分にも生えたそのイチモツを
怪訝に触れてみる

（熱い……そして湿っぽい……）

恐る恐る触れるナコルルに対
し、リムルルは反り返らん程に
怒張したイチモツを一心不乱に
擦り上げている。

「ふうっ……んうっ♡」

うふふふふ……♡♡♡」

「駄目よっ！リムルル！正気を保
つて！」

既に恍惚でうるんだ瞳、リムル
ルは正気を保っていない。

（この原因は二体……）

ナコルルはここまでの道程を思
い返しその原因を推理する

しかしその行動は柔らかな感触
に打ち消される

「んんっ……リムルル……何をっ

……むちゅっ」

「何ってえ……姉さまだってして
るでしょう……♡」

そういつてリムルルは自分のモ
ノへ手を治える。

そんな、と思うナコルルであつた
が、既に考えとは裏腹に触れら
れた部分から痺れるような快楽
が全身に巡ってくるのが解る

（ああ、そんな、トロけそう……）

ナコルル自身も既に抗うことは
出来ず、その身を妹に委ねてい
た。

（駄目よ……とりあえずこれを
鎮めなければ……）



リムルルは興味津々にナコルルに生えたイチモツをまさぐる

「はぁ♥素敵な姉さまの匂い♥」

鼻を陰茎に直接当ててリムルルはスンスンとナコルルを弄ぶ
「ああ、いけないわそんな事♥♥
一体どうして……♥♥」

こそばゆい戯れから微細な快楽が波状に掛かりナコルルは身体を強張らせる。

続く快楽にその身はほぐれつつも、ナコルルは懸命に思い出す、旅籠で出された食事の後に煙管を吸う小柄な薬師と会った事。

「南蛮の薬を取扱っており……」

「私たちには必要ないわ。先祖代々の教えもあります」

「そうですか……」

薬師は煙管を吹かす。煙からは麝香の香りが鼻にかすめた。

「もしやあの時……既に……？」

「はぁぐう♥♥♥」

「うふふ♥♥♥駄目よ姉さませっかくのこの時間をおろそかにしないでえ……♥♥♥」

リムルルは巧みな指使いでナコルルの女陰に指を入れる。

まだゆるみ切っていないそのつぼみを、リムルルは日本の指紋でこじ開けていく

「かぁぁぁ♥♥♥ダメエっそんな強引にいい♥♥♥」

肌寒い夜の中、乱れ跳ねる白い肢体に二人の吐息は二層に荒い呼吸を震わせた。



愛撫されながらナコルルは薬師との会話を思い出していた
(女性……だけの支援……私怨？ たったかしら？ 幕府の財政を脅かさんと私服を肥やすとか……そこで……変な……)
ナコルルはそんな薬師の言葉を聞き、その邪な演説には興味を示さなかった。
(……席を立ち……ハッ！)
思い出す。薬師に興味を失せたナコルルはその場を去り、リムルルと薬師だけ残した事を「リムルルっ！ 貴方まさかあの薬師から何か……？」
「もう我慢できないっ姉さまっつ お覚悟おっ♥♥♥♥♥」
「ひゃああああん♥♥♥♥♥」
リムルルはナコルルを組み伏せ、そのまま強引に女陰に陰茎を挿入させていく、充分に潤滑していると思いきや、ぶちぶちっつとナコルルの女陰からは鮮血が飛び散った。
「きゃああああっ！ 駄目っ♥ダメよこんなのおっ♥♥♥♥♥」
「んん……あの薬師さんの事お？とても良い人だったよお♥♥♥♥♥」
「あの時もらった薬なら不安も、不満も、臆病さだって無くなっていく……♥♥♥♥♥とてもとても白い……白いお薬だったおあ……♥」
「リムルルは何を言っているの？ ああでも、もう何も考えられないiiiiっ！」



ガクガクと身体を揺すぶられ
思考も徐々に白く濁っていく
（あの時……あの薬師は何と言
たか？……らぼ♥……活動がど
うとか……もう思い出せない）
初めて男根に貫かれ、その男
根は自分にも生えていて、その
両方が自分の腹の中と外で暴れ
振り乱れている。背に居るリム
ルルも恍惚に熱を帯びた表情で
自分を見つめる。これが本気の
交じわい、いや『まぐわい』とい
うのはこういう勢いなのか、様々な
感覚が身体中に痺れ伝わる。痛
い……激しい……でも暖かい……
……そしてちよつと苦しい、何かを
出したくてもまだ出ず段階では
ないもどかしさと痺れがナコ
ルの頭の中をかけ巡っていた。
『あたしもその動きに合わせる
わっ導いてっリムルルっ♥♥♥』
『ねえさまあつ大スキイっ♥♥♥』
『ああんいんっうっん♥♥♥♥♥』
合図と共に双方の亀頭は白濁
した液を豪放に噴射していく
ナコルルはそのまま失神してし
まい、残されたリムルルは我に
返り静まった股間を見てみる。
『はあ♥……はあ♥……も、戻ら
ないね……どうしよう……♥』
射精の果てに消えると思われた
陰茎は、まだその形を保っている。
薬の効果はどこまで続くのか？
（どど、どうしよう……こうなっ
たら……）



「さあいちっしやいまし♡古道の旅籠『ヤリコタン』よぉ♡♡」
二人が朝になると旅籠屋は女郎屋へと変貌していた。
「南蛮渡来の飾り小屋にとびつきりの姉妹がご奉仕しますよぉ♡♡♡」
ナコルル・リムルルは極小の水着に身をまとい、参拝者を宿に引き入れようとしていた。
「い……いちっしやいませ」
「ほら姉さまーそんな恥ずかしがつてちゃ駄目だよ。♡頑張ってお客さんにおカネ落としてもらつてえ♡またあの南蛮のお薬を買わなくっちゃあ♡♡」
「うんええ……なぜこんな事にい」
あの薬の売人は既に居ない。昨晩に盛られた薬『婆衣離意思（バイリーシ）』とは女性専用の精力剤だと後で判明する。飛騨・戸隠村に住む花楓院和狛が研究の為、輸入をしていたらしい。
「ふぉっふぉっふぉっ、あの薬の効果は大しものぢやのう。女向けの薬では役に立たないかと思つたが、はてさて……」
小柄な男は僧侶に身を変え、ナコルル達を見据えている。
「薬で搾取。これぞ娘乱暴（コラボ）活動というものぢや……」
熊野古道に新たな隠し宿が誕生した。後に多様な女達がこの小屋に入るが、それはまだ少し先の話であった。
(完)

●じゃっじ先生の
お絵かきコーナー
じゃっじ先生から
コメントを貰おうとしましたが
今回も逃げられました。
ぐぬぬ。









○フタナコ
前にも載せた気がする。
たまに来るフタナリブーム



●気が付けば
娘(命)より
出番が多い色さん。
(むしろ娘の存在がマイナーすぎる)
令サムでは結構お気に入りです。
やはり時代はママキャラか？
でもこの人出てくるのは
大体独身時代だ。





●いろはさんと色
乳くらべ♥









●朝からご奉仕しちゃう
イメージです♥

■■■■■

■■■■■

■■■■■





いるはさんの本もそのうち作りたいですねえ
今回の本の企画会議の際にも
「いるはのフタナリ本作りたい」と言ったら
大反対されました。
ちなみにナヨルルは全員賛成でした。
まあいるはさんは
そのままで良いよね……



SAMURAI SPIRITS
それでは次回もゲーセンでお会いしましょう



※今回未収録のカットはシナリオ追加+カラー化した電子版にて追加収録予定です。

・ルルちゃん²・
発行日:2023年12月31日(C103)
発行:威風堂
印刷:JC2 TAIYAKI
mail:nakanorarmen@hotmail.com

・注意書き・
本書でのデジタルコピーを含む無断転載・複製・複写を禁止いたします。
上述の行為を発見・報告時には速やかに法的処理を致します。
またネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。



SAMURAI SPIRITS ONLY BOOK

威風堂 2023

たまつやだ・じゃっじ・中野ら〜めん